

2005年
1月

Kyoiku-Shigosen 教育子午線

兵庫教育大学広報誌

Vol.7

◎教育最前線

教員の指導力向上をめざして
～「与える教育」から「求め合う教育」へ～

◎研究ノートから

小竹光夫
岩田一彦

◎キャンパス・ウォッチング

◎うれしの交差点

◎附属施設リレー紹介

0501007



21世紀を生きる子どもたちの健全な成長を図るうえで、教師にかけられた期待と責任は大きいと言えます。しかし一方で、教師への批判が高まっているのも事実であり、あらためて教師の資質・能力とは何かが問われています。

社会情勢に合わせて 学校教育も変化

時代の流れとともに、私たちの生活は大きく変化しています。その変化は、単に大きいという量的なものにとどまらず、私たち一人ひとりの在り方や考え方にも影響を与える、いわば質的な変化も含んでいるようです。

例えばコンピューターや携帯電話の普及は、極めて便利な環境を生み出しましたが、半面、それによって変わりつつあるものも多いことが指摘されています。その一つが人と人とのかわり方の在り方です。これは変化を超えて、もはや「転換」ともいべき事態ではないでしょうか。

学校教育も社会の転換の中で大きく変ぼうしつつあります。一言で表現すれば「与える教育」から「求められる教育」への転換と言つてもいいでしょう。与える教育では教える側に主導権がありました。求められる教育で

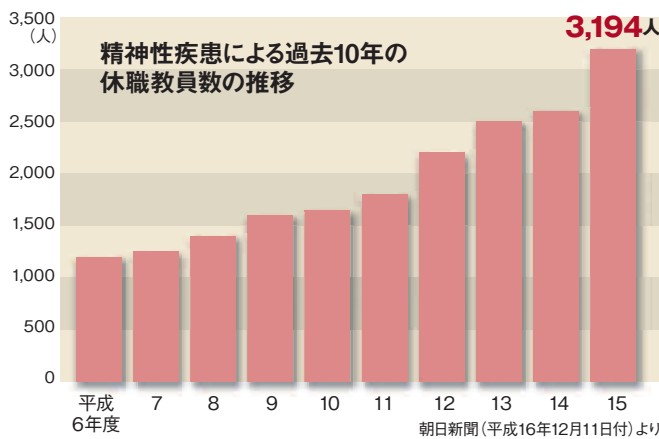
の主導権は子どもたちやその保護者にあります。しかも、求める側は一人ではなく、すべての子どもであり保護者です。こうなると今までのような教員を中心とした一方からの教育観や教育方法では、子どもたちを指導することは困難です。その象徴が「総合的な学習の時間」です。「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」は、与えるものではなく、子どもたちが獲得するものです。教員には子どもたち一人ひとりの学習へのきめ細やかな指導が求められます。これは一方向で

はなく、双方向の教育でなければできないことです。

指導力不足など 問題ある教員が増加

実際、教育困難な現状において、苦しんでいる教員が数多くいます。教科などに関する知識や指導技術等指導力が著しく劣っている教員、児童・生徒や保護者に接する態度に問題がある教員、いわゆる指導力不足教員や精神性疾患によって休職している教員の数は年々増加の傾向にあります。

このような教員に対して、国



教員の「与える教育」から「求め合う教育」へ 指導力向上を めざして

最前線 教育

The Front Line of Education

5割
ダメ先生2人免職処分

借金100万円して

交100人

界の小学校教諭を懲戒免

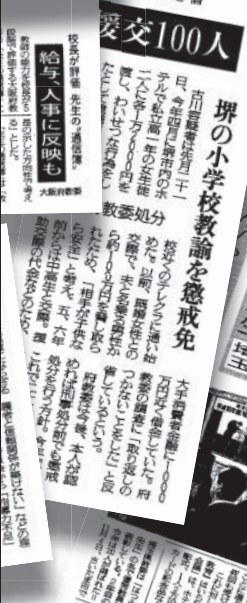
紙折りが折る教員が広がる
昇給や手当増も

授業の鉄人

はつらつ先生

管理強

管理強



	認定	研修	現場復帰	転任	退職		分限処分		
					論旨免職	依願退職	免職	降任	休職
平成12年度	65	52	18	0	0	22	0	0	0
13年度	149	119	39	0	0	38	0	1	7
14年度	289	223	92	0	0	58	3	1	15
15年度	481	298	97	3	0	88	5	0	9

※指導力不足教員(認定を行った者に加え、認定を行っていないが、指導力不足を理由として人事上の措置を行った者も含む)に対する措置等の実施状況。15年度に初めて3人(京都府2人、岡山県1人)が教員以外の地方公務員の職に転任した。

や各都道府県の教育委員会では実態を調査し、法改正を行って研修や転任、分限処分など厳しい対応をしていく方針です。しかし、重要な点は、これらの問題が一部の教員だけでなく、学校教育の転換の中で生じる、すべての教員にかかわる教育その

③教育の個性化・個別化が叫ばれるようになってきたが、多忙

①教科内容・教材研究中心に努力してきたタイプ⇨40〜50歳代の教員に多い。従来、楽しい授業、興味・関心を深める授業をめざしてきたが、授業時間の削減や「つまずき」「落ちこぼれ」の増大で、興味・関心を引く工夫だけでは授業が成立しなくなった。教育実践を取り巻く急激な環境変化に対応できず、自信や誇り、信頼感を失ってしまった。

②教育実践の場における新しい環境変化への対応を中心に努力してきたタイプ⇨20〜30歳代の教員に多い。情報化や国際化への対応、「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発・指導法開発の配慮を要する児童への対応、学校完全週5日制の実施に伴う地域社会での子育てへの対応など、若い教員としてその意欲や努力が期待され、新しい環境の変化に積極的に対応してきた。しかし、その間、本来の各教科などの指導方法・指導技術が十分に磨かれず、授業が成立せず、多くの「落ちこぼれ」を生み、「学力低下」を引き起こしてしまった。

もの問題だということ。小学校教育において、指導力不足を指摘される教員には、典型的に次の3タイプが挙げられます。

①教科内容・教材研究中心に努力してきたタイプ⇨40〜50歳代の教員に多い。従来、楽しい授業、興味・関心を深める授業をめざしてきたが、授業時間の削減や「つまずき」「落ちこぼれ」の増大で、興味・関心を引く工夫だけでは授業が成立しなくなった。教育実践を取り巻く急激な環境変化に対応できず、自信や誇り、信頼感を失ってしまった。

②教育実践の場における新しい環境変化への対応を中心に努力してきたタイプ⇨20〜30歳代の教員に多い。情報化や国際化への対応、「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発・指導法開発の配慮を要する児童への対応、学校完全週5日制の実施に伴う地域社会での子育てへの対応など、若い教員としてその意欲や努力が期待され、新しい環境の変化に積極的に対応してきた。しかし、その間、本来の各教科などの指導方法・指導技術が十分に磨かれず、授業が成立せず、多くの「落ちこぼれ」を生み、「学力低下」を引き起こしてしまった。

化のため、管理主義的に学級全体を取りまとめようとしたり、逆に放任主義に陥ってしまったタイプ⇨問題が生ずると個別にカウンセラーや生徒指導担当などに課題解決を任せてしまい、児童や保護者との信頼関係が結ばず、児童たちの間に支え合い高め合う関係を育てる学級づくりを軽視したり、無関心のままであった。

こうした指導力不足を指摘される教員を少なくしていくためには、①ゼネラリストとしての教員とスペシャリストとしての教育支援職員との役割分化と連携・協力による学校教育運営体制の改善、②ゼネラリストとして、ゆとりを持って、多角的で柔軟な視点から課題解決に取り組める実践的指導力の研さん等が必要です。

この問題について、大学での取り組みは、現職教員の研修・教育のために設置された兵庫教育大学には、教員の問題に対する積極的な貢献が期待されています。それに加えて、学生、院生、大学教

教員の問題について 大学の取り組みは

員の一人ひとりが、単に教えるための教科等の知識や技術の獲得だけをめざすのではなく、これまでの教育や自らの教育観を見直し、社会の質的な変化や学校教育の転換にふさわしい新たな教育の形を見出し、それを具体化することが必要です。それは「与える教育」から、「求め合う教育」への転換だと言えるでしょう。





管理職の役割がさらに重要に

兵庫県教育次長
杉本健三

21世紀の兵庫県の教育の活性化を図るため、教育の担い手である教員が高い志と情熱を持ち、優れた指導力をもとに、新たな学校づくりに主体的に参加していくことが重要であり、そのための資質能力や指導力の向上が今ほど強く求められている時はありません。

県教育委員会では、平成14年に「教職員のパワーアッププラン」を策定し、優秀な人材確保のための採

そのような中、とりわけ兵庫の教育改革を進めていくには、管理職が果たす役割は大きいと考えます。リーダーとしての重要な資質の一つは、素早い決断力と実行力ですが、さらに、学校マネジメント能力や危機管理能力に加え、時代にふさわしい校内研修体制を整えたり、教員のサポートに積極的にかわったりするなど、新しい教育の動きや

また、諸課題に果敢に挑戦していく中で図らずも挫折したり自信を喪失した教員に対しては、「指導力向上を要する教員にかかるフォローアップシステム」に従って適時適切な指導や研修機会を与え、エンパワーメントを図っています。

用方策をはじめ、初任者研修や10年目研修などステージに応じた研修、教員を民間企業に長期に派遣するチャレンジ研修の充実、管理職等リーダーの育成、メンタルヘルス体制の整備など110項目の事業について順次その取り組みを進め、教職員の資質能力の向上や士気高揚に努めてきました。

平成16年度学校管理職・教育行政職特別研修

研修テーマ	講義・演習内容
1日目 教育行政・学校経営改革の動向	開講式・オリエンテーション／講義「教育改革の動向」「教育行政・財政の地方分権化」「学校の自主性・自律性の確立」／演習「教育改革と学校経営課題の明確化」
2日目 学校経営と危機管理	講義「危機管理能力を高めるには」「不審者への対応」「情報セキュリティについて」／演習「学校経営と危機管理の実際(事例研究)」
3日目 組織マネジメントの理解と実習	講義「企業の経営と学校の経営」「学校改革と組織マネジメントの必要性」／演習「学校環境の分析」
4日目 特色ある教育施策と学校ビジョンの創造	講義「特色ある教育施策づくり」「学校ビジョンづくり」／演習「特色ある教育施策づくり」「学校ビジョンづくり」
5日目 特色ある学校づくりと教育課程経営	講義「学校単位の教育課程開発の必要性と課題」「学校単位の教育課程開発の事例」／演習「特色あるカリキュラムの実態分析」「カリキュラム改善計画の策定」
6日目 開かれた学校づくり	講義「開かれた学校づくり」「地域の教育資源の活用」／演習「開かれた学校経営の実践演習」「地域の教育資源活用の実践演習」／講話
7日目 教育法規の理解と応用	講義「学校教育と教育法規」「生徒指導の現状と課題」「労務管理関係法規」／演習「生徒指導関係法規実践演習」「労務管理関係法規実践演習」
8日目 教職員の職能開発・学校財務・道徳教育と人権教育	講義「道徳教育と人権教育」「教職員の職能開発」「校内研修の企画、運営」「学校財務制度の概要」／演習「校内研修企画運営実践演習」
9日目 こころのケア・教職員のメンタルヘルス・特別支援教育	講義「こころのケアの体制づくり」「教職員のメンタルヘルス」「特別支援教育」／演習「こころのケアの学校実践」
10日目 学校改善と学校自己評価システム	講義「学校自己評価の理解」／演習「学校自己評価システム」／全体総括／閉講式

現場の状況を熟知した人材が求められています。

県教育委員会では、以前から、現職教員を大学院に派遣する事業や大学教員を講師として招くスクールパートナーシップ事業など、兵庫教育大学との連携・交流を図ってきました。平成16年度には新たに新任教

頭・新任指導主事などを対象にした「学校管理職・教育行政職特別研修」のプロگرامを共同で開発し、実習・演習や事例研究などを通して、リーダーシップを発揮しつつ機能的な組織運営を行う資質能力の向上を図っているところです。

今後とも、保護者や地域の信頼を得る学校づくりのために、管理職のリーダーシップの確立を図り、意欲と功績のある教職員に対する顕彰制度の導入や教職員の新たな評価システムを検討するなど、「教えるプロ」としての教員の育成をめざして、教員の資質向上に努めていきます。

21世紀に求められる

これからの教員に必要なものは



芦屋市立朝日ヶ丘小学校
志波佳子 教諭



大阪市立泉尾東小学校
山口正昭 校長

指導力向上につながる2つの力

子どもたちは、自分の心の中を分かってもらえないからキレたり、自分の殻に閉じこもったりする。子どもの思いを引き出して耳を傾ければ、子どもは自分を表現できる。面白いと感じる授業では、子どもたちは目を輝かせる。授業時間をしんどいと思うか、楽しいと思うかによって、子どもの心のゆとりが変わってくるはずである。子どもの声や思いを聞き取る力と授業で子どもを引き付ける力。それが指導力向上につながると思う。

愛情と情熱と教育技術を

教師は子どもにとって最大の教育環境である。子どもへの限りない愛情と細部にわたる専門的な教育技術の向上に、間断なく精進しなければならない。学校現場における「いじめ」についても、ほとぼる教師の情熱が解決を可能にする。つまり「絶対に解決してみせるという責任感の強さ」「なんとしてもこの子を守ろうとする愛情の強さ」「いかなる理由があろうとも、いじめは絶対に許さないとする毅然たる態度と確信の大きさ」などである。

教員像とは

教員の資質・能力の向上をめざして課題と展望



学長
梶田 叡一

内面性重視の視点を身に付ける

私は、自己意識の心理学的研究と、教育評価や授業論を中心とした教育研究を長年してきました。この2つの研究の流れが合体する視点が「内面性の教育」であると云っていいでしょう。これは簡単に言えば、「学習者一人ひとりが持つ内面

世界に何よりもまず着目した教育を」ということです。

教育の基本方向としては、子ども一人ひとりの独自固有の内面世界が耕され、深め広げられ、その内面世界に足を降るす形で考え、判断し、行動する、という育ちを実現していくことが考えられなくてはなりません。今よく言われる「豊かな学力」にしても、「豊かな心」にしても、「豊かな心」とか「豊かな心」という形容語はこの意味での内面重視を不可欠の要素として含むものです。「豊かな学力」と「豊かな心」が実現していくためには、その人の内面世界に即した学習がなされる内面世界そのものが変容し、内面世界の深いところに根ざした形で知識や技能その他の諸能力が育っていき、そうした内面的な基盤がその人の判断や発言や行動の内面的枠組みとして育っていく、という方向での育ち

が不可欠なのです。

これを実現していくためには、教師の側に一人ひとりの学習者の内面世界の深い洞察が求められます。教師は、学習者一人ひとりの自分に向けられている顔（表情・態度・発言等）の裏側の世界に気づくことであり、その独自固有の在り方を理解することです。内面を何をどう感じているのか、どう考えどう判断しているのか、どういう思いやこだわりが去来しているのか、ということをつかろうとするのです。こうした洞察がないままでは一人ひとりの内面世界に着実に届く指導が不可能なままになるのではないのでしょうか。

同時に学習者の側には、教師の考えや周囲の意見に安易に同調するのではなく、自分が本当に納得できるかどうかを、頑固にまで考える習性が育ってほしいものです。「自分自身に対する誠実さ」です。権威に従っていく、周囲に合わせていく、といった習性を持った方が世間的にはうまくいく場合が多いでしょうが、そうした迎合同調を重ねていくなら、自分自身の中に本当に自分のものといえる拠り所を育てることが不可能です。そして、そうした内面的な拠り所抜きには「豊かな学力」も「豊かな心」もあり得ないのです。自分自身の内面世界を豊かにしていくためには、自分に合った本を探して読みふける、といった読書習慣をつけることが大事になります。また、自分の感性に合った音楽や美術作品を見つけて、できるだけ多くそれに接するというのも、自然の中で、あるいは社会環境の中でさまざまな体験をし、それを自分なりに振り返って吟味検討してみるといった「体験の経験化」

を図ることも重要な課題になるでしょう。いずれにせよ、こうした内面性重視の視点を教員養成の中で、現職教員の研修の中で、学生や研修生の一一人ひとりが身に付けてほしいと考えています。また、教育実践学をめざす各教官の研究の中にも、この視点を堅持していただけたらと考えています。教師の真の指導力は、こうした内面性の重視を抜きにしては考えられないと思うからです。

私自身も、本学在任中にこうした方向に向けての研究をもう一步進めていきたいと考えています。どうかよろしく願います。



連合学校教育学研究科(博士課程)
教科教育実践学専攻社会系教育連合講座D3回生
和田幸司



学校教育学部
芸術系教育講座(美術分野)4回生
古川和美

プラス思考で前向きに

大人だから教師だからではなく、私だからこうするんだって思えるような教師をめざしたいです。多くの教師の中の一人ではなく、たった一人しかいない私という教師になれるよう自分を磨きながら成長していきたいです。自分を認めることの大切さを学び、悩んだりつまづいたりした時もプラスに変えて頑張れる教師になって、子どもたちがたくさんの可能性を見つけられる手助けをしていきたいと考えています。

明確なビジョンの提示を

今、教育現場では、大きく揺れ動く「子供の実態」と教育の「原理原則」の中で、教師が具体的なビジョンを示すことが問われている。子どもたちと保護者に、具体的で達成可能なくつものプランを提示することが重要だ。連合学校教育学研究科での研究は、明確なビジョンを指し示し、弾力性ある教育実践を遂行する資質を身に付けさせてくれた。本質的に語るビジョンが正しければ、保護者や同僚を巻き込み質の高い教育が可能である。

「お習字は苦手でした…」

心の中には寂寞とした風が吹き荒れているのですが、挨拶を交わす相手方に悟られてはなりません。曖昧な笑いを浮かべながら、「書写教育」を語る1日が始まります。

何度、こんなことを繰り返してきてでしょう。学校教育のどこに

教育の姿は見えてきません。

学部1年生を対象とする「初等国語」の中で、2本の鉛筆をかざしながら、「これで何を語りますか？」と尋ねます。唐突な問いに戸惑いながらも、学生たちは学んでいきます。つまり、私たちが何気なく使っている「Bは濃い鉛筆、Hは薄い

書写用具の中で、なぜ毛筆だけ

が独立して位置付けられるのでしょうか。これではまるで、「筆は大事だから特別視しよう。後ののはひっくるめて硬筆とでもしておこう」としたと理解されても仕方ありません。この妙な特別視が毛筆さえ使っていれば書写をやっていると錯覚し、逆に使っていない



ば書写をやっていないと揶揄する屈折した状況を生んでいるのです。学習指導要領に、「硬筆による書写力の基礎となるよう…」と但し書きされているにも関わらずです。

21世紀を迎え、新しい時代に対応する教育の在り方が論じられ続けています。書写教育においても、理念や内容の再構成に取り組んでいます。附属実技教育研究指導センターが、ここ数年、継続的に掲げている「実技指導能力を育成する指導法に関する研究」への取り組みも、この一環として位置付けられるものです。習字意識からの脱却、新しい学びの研究、学習価値の見直し、いずれもが直結する課題として存在します。

私たちは、人との意思疎通をどうやって行っているのでしょうか。

語や文・文章を、どう書き記すか、

どう活用して交流を図るか。そのことを考えなければならぬはずで、単一の文字を書き習う筆技養成にのみ力を注ぐのでは目標を見誤っていると言えませぬ。「実技指導能力を育成する指導法に関する研究」は、換言すれば「教師も



附属実技教育研究指導センター
語学教育分野(書写書道)教授

© Shinobu Mitsuo

小竹光夫

「変わらなくちゃ！」への道筋であろうと思えます。

書写書道研究室では、このような視点で「新しい時代に対応する書写教育」を考え続けています。目下の最重要課題：学生たち、縦書きの板書ができません。その克服に向けた学びの道を探求中。課題多し…。

研究室 <http://www.soc.hyogo-u.ac.jp/mitshino/index.htm>

習字から書写へ 毛筆から硬筆へ

教師も

変わらなくちゃ！



「習字」という学習・授業が存在するのでしよう。それを切り崩すために、「書写教育の在り方」を学生や院生に説く日々なのです。「諸悪の根源」「悪の連鎖」と言ってはほかにないのですが、この旧態依然として観念的な習字意識を払拭しない限り、新しい時代に対応する書写

鉛筆である」という発言の矛盾を…。BはBlack、HはHardですから、対極にあるものとは思えません。笑い話のようなことですが、この錯誤は書写教育の中にもあります。毛筆書写と硬筆書写という表現自体、異様な取り合わせと感じられませんか。

From research notes.

社会科学ではどのような子どもを育成していけばよいのだろうか。科学的な知識を身に付け、教養もあり、将来予測の基に価値判断ができる子どもを育成していきたい。そのためには、どのような内容と学習方法を設計していけばよいのだろうか。こういった問題意識から、社会科学授業設計論、社会科学授業分析・評価論、地理的な分野を中心とした基礎・基本論の研究を進めている。育成すべき知識論の視点から述べる。

1 科学知

人類は1万年の歴史を通じて、科学の研究成果を蓄積してきた。教育はその成果を次世代に伝えていく義務を負っている。1万年の成果を義務教育9年から大学卒業までの16年の間に、伝達していくことが求められている。科学知を抽出して児童・生徒に示して暗記を強要しても、それでは伝わらない。科学知の成果を児童・生徒が自分の問題として感じ取り、自ら追求していく過程を設計していくことが必要なのである。

社会科学で伝えるべき科学知は何かを、主として地理的な領域について研究している。そして、基礎・基本の確定とそれを習得していく社会科学授業を設計することを進めている。

2 教養知

豊臣秀吉、太平洋ベルト工業地帯、モンスーン気候、アメリカの大規模機械化農業、出雲大社、これらの用語は日本人ならば誰でも知っている。日本人としての最低限の教養知である。日本人として知るべき教養知は何か、グローバル世界で

活躍する人が身に付けておくべき教養知は何か、これらの視点からの知識の検討が欠かせない。

日本人共通の教養知は、日本人としてのアイデンティティを形成する重要事項である。社会科学としての教養知をどのように構成するか、どのようにして身に付けさせる

社会で活躍できる 人材の育成を 社会科学の視点から



かについての研究も進めている。

3 規範知

児童・生徒は学校教育が終わると社会に出ていく。社会では日々、行動の決断を求められる。その際に、未来予測を科学的判断ができ、間違いの少ない価値判断ができるように教育しておくことが重要である。



社会系教育講座教授

© Iwata Kazuhiko

岩田一彦

遭遇する問題に対してどのような規範知があり、その規範知の背景を把握しておくことが重要なのである。それを可能にするために、社会科学授業において、価値判断場面をどのように組み込んでいくべきかについて研究を進めている。

※

科学知、教養知、規範知を、構造的にカリキュラムに組み込み授業設計に生かしていくことと、それを可能にする教科書研究も行っている。



食堂や各種売店が入っている大学会館

術棟中庭の少女像や建物内および周辺に置かれた作品、国際交

学生生活をより便利に快適に 学内には売店や設備が充実

備にも力を入れています。キャンパスには芸術系教育講座（美術分野）の教員による作品がそこそこ見られます。事務局正面入り口付近の彫刻作品、同じく事務局玄関にある陶板壁面装飾、図書館中庭の少女像、芸

大学のキャンパスは学生にとって1日の大半を過ごす場所。特に寄宿舎に住んでいる人たちは、24時間の生活の場です。卒業後も青春時代の思い出の場所となるよう、本学ではキャンパス整備にも力を入れています。

流会館集會室の壁面レリーフ、そして事務局会議室等に展示されている絵画や書の作品。豊かな人間性を培うことは大学教育、特に教員養成教育においてはその目的の一つとされています。芸術の薫り高い環境にあり、そこに集う人々の感性や感覚が自ずと陶冶されるようなキャンパスづくりをめざしています。

キャンパス・ライフの中心は何と言っても大学会館です。ここには食堂や喫茶室、書店、売店、理容室、ATMなどが入っています。



学術図書から雑誌まで幅広い品ぞろえ

課外活動の場として利用できる集會室や和室、談話室も設けています。また、嬉野生活会館にも文房具や日用品の売店、ATM、多目的ホールがあります。

学生生活に関するアンケートでは「食事のバランス」に関する悩みが最近、増加傾向にあります。バランスの取れた食事は生活の基本にかかわる大切なこと。学校教育においても「食育」の重要性が

謳われています。16年度からの新しい試みとして、食堂では新入生を対象に、朝食をきちんと取る習慣を身に付けてもらおうと、新学期の1週間、朝食の無料サービスを実施しました。通常のメニューにもさまざまな工夫を加え、充実を図っています。

文房具や日用品の売店では品質管理の徹底はもちろんのこと、特別セールを週1回行い、良いも



食料品を中心に日用品が並ぶ嬉野生活会館の売店

のを安く提供するように努めています。書店ではすべての書籍を1割引きにし、ファクスやメールでの注文も受け付けています。理容室では顧客カードにより、きめ細かなサービス提供に努めています。

From Shop Staff

食堂

利用者の皆さんが喜んでもらえるような食事を提供することを念頭に置いています。今後も、味付けの見直しやメニューの充実を図るなど、利用者の満足度の向上につながるもてなしに努めていきます。(給食管理部部長・立岡さん)

売店

新しく良い商品をできるだけ廉価で提供するとともに、利用者のニーズを踏まえて、品質管理の徹底や週1回の特別販売品の設定、売店周辺の清掃など、あらゆる面のサービス向上に努めています。(店長・吉田さん)

書店

学生さんのいろいろな要望にこたえられるよう、学術書に限らず一般書籍も充実させていきます。特に、教育大学なので教育関係の書籍の品ぞろえに力を入れていきたいと考えています。(店員・服部さん)

理容室

初めての利用者に顧客カードを記入していただき、2回目以降の利用の際、速やかなサービスの提供に努めています。新規客を増やしていくためにどのようなサービスが必要か、常に検討しています。(理容師・山城さん)

う れ し の 交 差 点

「ビデオ講座ライブラリー」 貸し出しのご案内

兵庫教育大学では、各学校の教材や地域住民の生涯学習に役立ててもらうことを目的に、教育ビデオを制作しています。「子育て支援」と「風土とくらし」の2つのテーマを軸にしてシリーズ化を進めており、現在ある5作品は貸し出しもしています。今後はラインアップをさらに充実させていくとともに、県内各市町のケーブルテレビや生涯学習センターなどへも提供していく予定です。



◎ビデオ内容 ※映像時間は各45分

【子育て支援】

子どもの世界 (平成14年度制作)

周囲の人や環境と積極的にかかわり、身近な大人に支えられながら、仲間とともにさまざまな経験をしていく子どもたち。日常の子どもの映像を通して、乳幼児期の発育を解説します。

子どもの世界II-子どもを活かす親子関係-(平成15年度制作)

小学校の低学年から中学年にかけての子どもの特徴を解説。子どもの「やる気」を高めるために親はどうすればいいのかを考えていきます。

【風土とくらし】

兵の道 巡礼の道 (平成14年度制作)

中世の時代、東播磨の道を行き交った兵(つもの)と巡礼者にまつわる史跡を訪ね、その足跡をたどります。

空からみる東播磨-加古川流域の空中散歩-(平成15年度制作)

加古川の流れに沿って東播磨地域を空中散歩。見慣れた景色も上空から眺めると違ったものに見え、この地域が豊かな自然に恵まれているとあらためて感じられます。

ここからからだを癒す運動・スポーツ(上) (平成15年度制作)

①「目覚めの体操」でフレッシュアップ②「チョコキン(貯筋)」で寝たきり防止③「ウォーキング」で幸福生活④「クーリングダウン」でフレッシュの4部門で構成。実演と解説を交えながら、心と体を癒す運動の一例を紹介します。

◎今後の制作予定 ※仮題

子どもの世界III-青年期の心理と親子のコミュニケーション-

播磨の土地の成り立ち-坂道から探る六甲変動-

彫刻と親しもう

社町周辺の里山と社寺林が語るもの

◎利用方法

●貸出料……………無料

●貸出期間……………最大2週間
貸し出しについては地域交流推進センター☎0795-44-2053 (office-2053@office.hyogo-u.ac.jp) までお問い合わせください。

Books

オリンピックを知ろう! 21世紀オリンピック豆事典

日本オリンピック・アカデミー編

推薦人: 畑野裕子 (生活・健康系教育講座)

2004年のオリンピックは五輪発祥の地、ギリシャアテネで開催されました。日本選手の目覚ましい活躍は記憶に新しいところです。この本を編集している日本オリンピック・アカデミー (JOA) は、オリンピック・ムーブメント推進のためにさまざまな活動に取り組んでいます。

本書では、オリンピックのヒーローやヒロインのエピソードはもとより、創始者クーベルタン男爵が提唱したオリンピズムや文化プログラム、オリンピック休戦センター、長野冬季五輪で始まった一校一國運動などのオリンピック教育についても分かりやすく説明されています。コンパクトにまとめられ、いつでも参考にできる事典であり、読み物としても子どもから大人まで興味深い一冊です。

附属図書館で見つけた おすすめの一冊



和文化

—日本の伝統を体感するQA事典

中村哲編 明治図書

推薦人: 藤井德行 (社会系教育講座)



小学校時代、通学路で道草しませんでしたか。鍛冶屋、自転車屋、板金屋、仏壇屋、パン屋など、見る物皆珍しく、学校の行き帰りに仕事場に座り込んで、その素晴らしい技術を惚れ惚れしながら見ていました。本書は忘れつつある和文化を取り戻し、再発見の旅へと誘ってくれます。例えば、バーバラ寺岡さんは「日本料理になぜ生野菜のサラダがないのか」を教え、温野菜中心のより体に良い食べ方をしていたことを発見し、鉄分の取り方もホウレンソウなどの三価鉄は腸から吸収されないが、日本流の鉄鍋や鉄瓶のイオン状態の二価鉄からは無駄なく小腸から吸収できると言います。日本の良さを再発見する良い手だてになります。

附属施設 リレー紹介

第6回 情報処理センター



案内人
正司和彦
センター長

情報化の進展に伴って、大学における教育・研究活動や学生生活もインターネットなどの情報通信システムに大きく依存するようになってきました。

情報処理センターは、大学全体の情報通信ネットワーク（HUNET）、授業などで利用される情報教育実習室を備え、各棟にある分散端末や高速計算用の学術研究システム、図書館に設置されている学術情報システム、各種デジタルコンテンツ作成用の教育情報処理システムを管理・運用するなど、情報通信の側面から教育・研究を支援してい

ます。安全で安定的なシステム運用と通信の高速化やコストダウンといったシステム改善に日夜努力しています。また、情報の安全確保が社会的に重要な課題となっており、本学も「国立大学法人兵庫教育大学情報



情報教育実習室



情報処理センター

平成6(1994)年開設

セキュリティポリシーを実施しています。これを受け、センターでは学生向け手引書作成などの利用者教育、各種手続きの整備とWebページの充実に取り組んでいます。

兵庫教育大学情報ネットへ接続する回線整備や全学規模のeラーニング環境整備などを通して、大学変革のための新しい試みにも取り組んでいきたいと考えています。



嬉野キャンパスのほぼ中央にあります

卒業生・修了生からのメッセージ

Messages From OB&OG



宝塚市立仁川幼稚園教諭
白石 肇さん

平成10年度学校教育学部
初等教育教員養成課程幼児教育専修卒業

幼稚園教諭として働き始めて5年。毎日、たくさんの子どもたちの笑顔とパワーに支えられて、楽しく過ごしています。兵庫教育大学では、何らかの形で幼・小・中の教育実習を経験することができました。そのことが、幼稚園教諭になりたいというきっかけにもなり、また、幼・小・中が連携して地域で子どもを育てていこうという今の自分の考え方の基本となっています。大学での実習や講義などで学んだことすべてが、今の自分の支えになっていると実感しています。



姫路市立飾磨小学校教諭
山本恵三さん

平成11年度大学院修士課程
教科・領域専攻自然系(数学)コース修了

「教職にある限り、自ら学び続ける姿勢を持ち続けなさい」。院生生活で教官の先生方から一番教えられたことだ。私から見れば、知識も経験も実績も素晴らしい先生方が、研究や学生の指導に骨身を惜しまず取り組まれている。そのような姿勢を目の当たりにし、及ばずながら自分も…と自らを奮い立たせる者も少なくないと思う。教育現場に復帰して、はや4年が過ぎた。思いとは裏腹に仕事に忙殺される毎日だが、学び続けることを肝に銘じてこれからも邁進していきたい。



熊本大学助教授
河野順子さん

平成14年度大学院博士課程
教科教育実践学専攻言語系教育連合講座修了

修士課程を修了した後も、恩師の中洲正堯先生から研究会などを通して学び続け、その後の10年の実践と理論をまとめた博士論文は、私の教師生活の大きな指針となっています。熊本に来て半年余り、現場の先生方と勉強させていただく機会も増えました。その折に「理論と実践が融合された有益なお話でした」と言葉をいただき、兵庫教育大学の理念が現場から求められていることを痛感しています。今後も先生から学んだ理念を実現すべく、力を尽くしていきたいです。

Campus Topics

キャンパス・トピックス

2004.7~12



一味違う教員養成を 梶田新学長が就任あいさつ

12月2日、共通講義棟106教室で、12月1日付けで学長に就任した梶田新学長があいさつを行いました。

梶田学長は、自身のこれまでの経験を交えながら、「本学の創立以来の歴史を厳しく振り返り、現状について反省を深め、今後の在り方を考えていかねばならない」と熱く語りました。「兵庫教育大学にルネサンスを！」とモットーを掲げ、「創立期の関係者の方々の胸にあつた大きな夢を今こそ再生し、そうした土台の上に大輪の花を咲かせるべく皆で努力をする時期にきている。その実現のために、今までは一味違う教員養成や現職教員の研修をしていく必要性がある」と訴えました。教職員など約250人の出席者は終始、真摯な態度で聴き入っていました。

7月

3日~8月28日

◎公開講座「楽しくてうまくなるテニス教室」(全8回)

11日

◎附属幼稚園「ほしぞらカーニバル」

14日

◎附属中学校人権学習発表会

16日

◎大学・高等学校教育研究懇談会

17日~10月9日

◎公開講座「スポーツが好きになる親子教室」(全9回)

24日

◎「小・中学生のための夏休みサイエンス&ものづくり教室」

25日

◎オープンキャンパス

26日~8月31日

◎平成16年度兵庫県・神戸市教育職員免許法認定講習

30日~8月27日

◎公開講座「理科実験・観察のカンドコロ」(全4回)

8月

18日

◎教育実践学フォーラム2004(第1回)

21日~22日

◎平成17年度大学院入学者選抜試験(前期)

23日

◎平成16年度10年経験者研修における生徒指導研修

27日

◎総合学習シンポジウム

9月

9日~10日

◎附属幼稚園「わくわくキャンプ」

10日

◎平成17年度大学院入学者選抜試験合格発表(前期)

11日~11月6日

◎公開講座「生涯を通して楽しむ英語と英米文化」(全9回)

18日~11月6日

◎公開講座「伝説と史実と」(全8回)

18日~12月18日

◎公開講座「発達が気になる子どもの家庭療育の方法」(全10回)

25日

◎附属小学校「うれしのカーニバル」

29日

◎連合学校教育学研究科前期

10月

修了者への博士の学位記交付
◎論文提出による博士の学位記交付

1日

◎創立記念日

9日~11月27日

◎公開講座「ピアノを弾こう!」(全5回)

10日

◎附属幼稚園運動会

23日~24日

◎公開講座「現職教員等を対象とした毛筆書写講座」(2日連続)

30日

◎附属中学校「友嬉祭」

11月

2日~5日

◎公開講座「絵画制作」

(4日連続)

6日

◎学校教育研究センタープロジェクト研究発表会、特別講演会、シンポジウム

7日

◎教育実践学フォーラム2004(第2回)

13日

◎平成17年度大学院入学者選抜試験(後期)

18日

◎附属中学校研究発表会

20日~21日

◎大学祭「嬉望祭」

12月

1日

◎新学長就任

3日

◎平成17年度大学院入学者選抜試験合格発表(後期)

総合的な学習の方向性を探る シンポジウムを開催

8月27日、大学院神戸サテライトで「総合的な学習が育む確かな学力・学習指導要領改正のめざすもの」をテーマに、総合学習シンポジウムを開催。現職教員や教育関係者など約150人が参加しました。

濱名外喜男副学長のあいさつに始まり、開敏之県教育委員会主任指導主事が趣旨を説明。安彦忠彦早稲田大学教授の基調講演に続き、山本正博教諭(三木市立口吉川小学校)と吉見達也教諭(篠山市立篠山中学校、松本伸示教授が問題提起・実践報告を行いました。増澤康男教授が司会を務めたパネルディスカッションには安彦教授、開主事、山本教諭、吉見教諭、松本教授が出席。フロアを交えての討論・質疑も繰り広げられました。最後は小川武範教授の総括で幕を閉じました。



県教育委員会と連携し 学校管理職等研修がスタート

教育現場への分権化が進み、校長や教頭、指導主事など第一線管理職(スクールリーダー)の能力向上が要請される中、本学は県教育委員会と連携して「学校管理職・教育行政職特別研修」を開始しました。新任の教頭と指導主事を対象に、前期(5月)と後期(10月)に延べ10日間にわたる合宿研修を実施し、教育行政・学校経営の改善に向けた理論と実践的な知識の修得、スキルアップのための小グループ演習を行うものです。全国初の大学と教育委員会の連携による本格的研修として注目されています。

兵庫教育大学からのお知らせ

☎=問い合わせ先

◎平成17年度学生募集

☆学校教育学部

◎前・後期日程等出願期間

1月24日(月)～2月2日(水)

◎推薦による選抜試験日

1月25日(火) ※出願期間:平成16年12月10日～17日

◎前期日程・帰国子女特別選抜試験日

2月25日(金)・26日(土)

◎私費外国人留学生特別選抜試験日

2月27日(日)

◎後期日程試験日

3月12日(土)

☆連合学校教育学研究科(大学院博士課程)

◎試験日

2月13日(日) ※出願期間:平成16年12月13日～20日

※上記のほか、科目等履修生(学部、大学院修士課程)、研究生、連合学校教育学研究科研究生の募集もしています。

☎入学主幹室 ☎0795-44-2067

☆附属小学校

◎募集人員

108人(うち約70人は附属幼稚園の修了者)

◎出願期間

1月4日(火)～7日(金)

◎面接日

1月17日(月)

※附属幼稚園からの連絡進学者を除く応募者について面接します。

◎選考結果発表および抽選会

1月24日(月)

☎附属小学校事務室 ☎0795-40-2218

☆附属中学校

◎募集人員

120人(うち約80人は附属小学校の卒業生)

◎出願期間

1月12日(水)～18日(火)

◎面接日

1月22日(土)

◎選考結果発表および抽選会

1月31日(月)

☎附属中学校事務室 ☎0795-40-2224

◎第2回兵庫教育大学 芸術系音楽コース演奏会

音楽コースの教員と学生が演奏します。

◎開催日・時間

1月14日(金)・19:00～

◎場所

伊丹アイフォニックホール

☎芸術棟事務室 ☎0795-44-2249 ☎0795-4-2259

◎第6回兵庫教育大学美術展

美術専攻の学生と教員による作品展。絵画や彫塑、デザイン、工芸作品などを展示し、ワークショップも実施します。

◎開催期間

3月1日(火)～6日(日)

◎場所

県立美術館原田の森ギャラリー(神戸市灘区)

☎芸術棟事務室 ☎0795-44-2249 ☎0795-4-2259

<http://www.art.hyogo-u.ac.jp/art/top.html>

◎附属小学校研究発表会

研究主題「学びをひらくカリキュラムの創造(4年次)一少子化に対応し社会性・養護性を育むため



の「人間発達科」教育プログラムの研究開発—」

1日目…全体会、授業公開、分科会(人間発達科・総合的な学習)

2日目…全体会、授業公開、分科会(各教科・道徳・英語)、講演(講師:安彦忠彦早稲田大学教授)

◎開催日

1月27日(木)・28日(金)

◎場所

附属小学校

☎附属小学校事務室 ☎0795-40-2216 ☎0795-40-2219

E-mail: element@school.hyogo-u.ac.jp

<http://www.school.hyogo-u.ac.jp/element/index.htm>

◎附属幼稚園研究会

研究主題「子どもの発達の連続性を探る一幼小連携の実践を通して—」

◎開催日

1月27日(木)

◎場所

附属幼稚園(公開保育・全体会・分科会・講演会)

附属小学校(公開授業)

☎附属小学校事務室 ☎0795-40-2216 ☎0795-40-2219

E-mail: element@school.hyogo-u.ac.jp

<http://www.school.hyogo-u.ac.jp/element/index.htm>

◎教育実践学フォーラム2004 「子どもの心とからだの行動」(第4回)

テーマ「青少年の危険行動とその関連要因」

◎対象

学校教育学関係研究者、大学院生、学校教員など

◎定員

50人

◎開催日

2月19日(土)

◎場所

キャンパス・イノベーションセンター(大阪市北区)

☎教務課連合大学院事務係 ☎0795-44-2068

E-mail: office-2068@office.hyogo-u.ac.jp

<http://www.office.hyogo-u.ac.jp/jgs/doc/top.html>

◎北播磨地域学習フォーラム(仮称)

各種団体からの活動報告と意見交換を通して、地域学習の活性化や、伝統文化継承の方策、地域学習団体と学校教育の連携の在り方を探ります。

◎対象

地域研究・学習団体、伝統芸能保存会、一般市民

◎開催日・時間

3月5日(土)・13:00～17:00

◎場所

西脇市総合市民センター

☎庶務課広報・社会貢献担当専門職員

☎0795-44-2053

E-mail: office-2053@office.hyogo-u.ac.jp

速報— 昨年12月13日に文部科学省が発表した「国立大学教員養成大学・学部(教員養成課程)の教員就職率ランキング」で、兵庫教育大学の平成16年3月学部卒業者の教員就職率は74.2%と全国1位に輝きました。

Hyogo University of Teacher Education

編集後記

教員の資質向上をめざす教育に、兵庫教育大学はどのようにかかわっていくのかをテーマに「教育最前線」を組みました。国立大学法人兵庫教育大学となって初めて選出された新学長に抱負を述べてもらい、兵庫県教育次長には現場の実態と政策面について語っていただきました。現場の教師は日々、さまざまな社会とのかかわりや教員個人の社会生活の中で、子どもに質の高い教育を与えていかなければなりません。この企画が新たな取り組みに良い刺激となることを念じています。(ふ)

◎あなたの声をお聞かせください

『教育子午線』では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりをめざしています。

ご意見、ご感想、ご希望などがありましたら、どしどしお寄せください。

●あて先: 〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1

兵庫教育大学庶務課広報・社会貢献担当専門職員

☎0795-44-2053 ☎0795-44-2009 E-mail: office-2053@office.hyogo-u.ac.jp

Kyoiku-Shigosen

教育子午線

第7号 2005年1月発行

発行/兵庫教育大学 大学広報委員会

<http://www.hyogo-u.ac.jp>

編集協力/㈱神戸新聞マーケティングセンター